

# 私たちの「仲間たち」

289

## 雑木林のごずえを混群がいく…

冬の雑木林は歩くだけでも楽しい。ゆっくりゆっくり、足もとでは落葉がカサコソ音を立て、お日さまは葉を落とした木々の枝を縫うようにして差し込んでくる。時々立ちどまって梢を見上げる。視線の先に小さな鳥が群れを成して移動していくことがある。「鳥好き人間」にとってはこれがたまらない。エナガ、シジュウカラ、ヤマガラ、ヒガラ、コゲラなど、種類の違う小鳥をいっぺんに観察できるからだ。これを「混群（こんぐん）」という。群れは数羽の時もあれば20〜30羽になることもある。その中のリーダー格がエナガだろうか。体は



▲鳩山の動植物  
エナガ (エナガ科)

13・5程度だが尾が長い。頭が白く、目のところを黒く線が走っている。腹が白く、背は黒と紅紫色で尾は黒い。白と黒、紅紫色がこの鳥を清楚に見せている。そのうえ混群の中でも数が多いのでよく目立つ。

私は「鳥見」の仲間たちと年1回、この混群の調査を行っている。暮れの12月22日にも石坂の森で行った。エナガは秋から冬にかけて親戚同士が集まって群れをつくるそうである。群れの縄張りが大体0・3平方キロといわれ、それが冬の活動範囲となる。したがって、その範囲以外でエナガを見たら別のエナガ一族と考えられる。その群れにほかの小鳥たちがまじって「混群」となる。小さい鳥が群れをつくるのは「天敵」から身を守る知恵であるともいわれる。

エナガは繁殖期になると、高さ約10センチ前後の円筒状の巣をつくる。これが素晴らしい。外装はコケをクモの糸などで貼り付け、内部には多量の鳥羽毛、獣毛が敷き詰められる。一見すると木のこぶしのように見えるので外敵から見つかりにくくなっている。

エナガは一族による縄張り行動といい、芸術作品のような巣といい「不思議発見」を思わせる鳥なのである。  
(写真・小倉憲貴／文 鈴木伸)

## 人口と世帯

1月1日現在、( )は対前月比

人口	14,712人	(-13)
男	7,273人	(±0)
女	7,439人	(-13)
世帯	5,822世帯	(+3)
12月の出生数	4人	

## 2月の納税・納付

固定資産税	(第4期)
国民健康保険税(普通徴収)	(第8期)
介護保険料(普通徴収)	(第8期)
後期高齢者医療保険料(普通徴収)	(第8期)
水道料金	(12・1月分)

●納期限を過ぎないように、コンビニ納付や口座振替をご利用ください。

## 編・集・室

▼本号でもお伝えした成人式ですが、人生の節目の儀式として、「立志式」というものがあります。これは、中学2年生を対象に、満14歳を迎え、身も心も著しく成長し、大人への第一歩を踏み出すこの時期に、自らを反省し、将来に思いをはせ、心身ともに健全な成長を期する決意を固める儀式です。鳩山町では、昭和42年〜昭和62年頃にかけて、鳩山中学校でも「立志式」が行われていました。

## 広報写真で振り返る町の歴史 ②



文集(左)と式典



昭和56年2月19日  
第14回鳩中立志式開催  
中央公民館で行われた立志式について、学年主任(当時)の関口みさ子先生の声とともに伝えられています。【昭和56年3月(No.102)号より】